



8月11日

## 地元食材を使い森の中でクッキング

中野方町の望郷の森キャンプ場で「子どもと作る森の食フェスティバル」が行われました。これは、開放的な森の中で楽しく料理をすることで、訪れた親子に町の魅力を感じてもらおうと企画されたものです。

講師は、東京都で料理教室などを開いている塚本紗代子さんら。70人の参加者は、恵那の食材で森のパエリアや魚の串焼きなどを作りました。

恵那北中学校1年生の山田幸来さんは「パエリアがおいしいし、みんなと一緒に食べるのも楽しい」と話しました。森の中は心地よい風が吹き抜け、参加者は思い思いの場所で食事を楽しみました。



8月8日

## 事前キャンプ地でのボート体験

ポーランドカヌーチームの東京2020大会の事前キャンプ地に決まった笠置峡ボート・カヌー場で、実業団ボート部の選手たちと一緒にボート体験をする「ローイングチャレンジフェスティバル」が開催されました。これは、明治安田生命ボート部、中部電力ボート部、デンソーボート部が、笠置峡での合同練習に合わせ、地域貢献事業の一環として開催。市内の小中学生23人が、レース用ボートに乗りました。大井小学校5年生の服部青泉さんは「本格的なボートは初めて。最初は難しかったけれど、とても楽しかった」と、夏休みの貴重な体験に心を弾ませていました。



7月27日

## 雨でもはつらつ、ナイスショット

60歳以上を中心にあらゆる世代の人がスポーツや文化を楽しむ祭典「第33回全国健康福祉祭ぎふ大会（ねりんピック岐阜2020）」に向けたリハーサル大会が、武並マレットゴルフ場で開催されました。

台風接近によるあいにくの雨模様にもかかわらず、市内外から165人が参加。「雨で滑るで気を付けんさいよ」「水分しっかり取らなかに」などと声を掛け合いながら、笑顔でマレットゴルフを楽しみました。

ねりんピック岐阜2020は県内42市町村で開催され、市では、令和2年11月1日(日)に武並マレットゴルフ場でマレットゴルフ大会が予定されています。



7月16日

## 世界チャンピオンから一輪車を習う

申原小学校では、毎年の運動会で一輪車演技を披露しています。そこで、技術をさらに磨こうと、国際大会で優勝経験のある鈴木奈菜さんと須郷真弥さんを講師に招き、全校児童が講習会を受けました。

この日は、ペアになって両手をつないで前進したり、2人が手をつないでもう1人がその間をくぐったりする技などを練習。鈴木さんと須郷さんからは「下を向かないで」「背筋を伸ばして」などと声が掛けられ、子どもたちは真剣な表情で練習に励みました。

一輪車の演技を披露する同校の運動会は、9月14日(土)に予定されています。



8月18日

## 貴重な体験となった海外派遣

恵那文化センターで、市国際交流協会オーストラリア派遣事業の帰国報告会がありました。25回目となる今年は、市内の中学2年生18人が7月28日から10日間、オーストラリアトゥーンバ市オーキー地区を訪問。ホームステイをしながら、現地の学校で授業を受けたり、日本文化を紹介したりと、さまざまな活動を行いました。

生徒らは「イエスカノーか、はっきり示すことが大切」「言葉が通じなくても伝える気持ちが大切」「もっと勉強してホストファミリーにまた会いに行きたい」など、一人ずつ堂々と発表。貴重な体験ができたことを報告しました。



8月10日

## 地域防災を考えたフォーラム

恵那文化センターで生涯学習フォーラムがあり、地域住民や学校教職員らが地域防災の大切さを学びました。

事例発表では、恵那東中学校防災リーダー実行委員会が、昨年の防災訓練で地域の自主防災隊と連携して避難所開設・運営訓練を行ったことなどを紹介。武並小学校は、6年間で体験学習や演習を行う防災スクールの取り組みについて話しました。

岐阜大学の高木朗義教授や市防災研究会会長の岩井慶次さんの指導で行われたグループディスカッションでは、「大人も真剣に地域防災を考えるべき」など、今後の防災活動について意見が交わされました。



8月7日

## 世界で一つだけののれん作ったよ

11月3日(日)から開催される中山道のれんコンテストを前に、出品する作品を作るワークショップが、市民会館で行われました。約20人の参加者は、割り箸や輪ゴム、ビー玉などさまざまな物をのれんにくり付け、染料に漬けるなどして、世界で一つだけののれんを作りました。

母親と一緒に参加した大井町の山口愛莉ちゃん(5歳)は「紫色に染めるの。どんな模様になるか、すごく楽しみ」と話しながら作業していました。

作品の応募は、9月17日(火)から27日(金)まで、市役所北庁舎の大井振興室・長島振興室で受け付けます。



7月18日

## 農高生らがエゴマのレシピを考案

耕作放棄地解消の取り組み「花咲か里山プロジェクト」で栽培したエゴマを活用しようと、恵那農業高等学校の生徒と料理人、市食生活改善連絡協議会(食改)が初のミーティングを行いました。

この日は、生徒6人が料理人の前でレシピを説明。個性的なエゴマレシピに、料理人からは「面白い」「いいアイデアだね」などの感想が出されました。これらのレシピは改良が加えられ、秋ごろに各料理人の店で提供される予定です。

生徒らは食改と協力して、家庭で作れるエゴマ料理も考案。こちらは11月23日(土)の農高祭で提供されます。